



令和7年度 学校だより

つなぐ

翠輝学園 つくば市立
みどりの南小学校
第34号
発行日 R7. 10. 28

授業についていけない場合、どのようにフォローしていくか(2) 授業改善に向けて

先日 31 号で、「授業改善」のための方策の一つとして、子供たちの「学力の基盤調査（たつじんテスト）」の実施についてお伝えしました。今回は、この調査を行う背景などをお伝えします。

以前、ある学級で、授業終了後に「次の授業は何か？」と言いながら、教室の後ろの時間割を見た子が「次、算数だー。算数きらい〜」と呟いていました。学習に対して苦手意識があり、授業中は辛い思いをしているのだと思います。これは、この子が本来持っている「学ぶ力」が十分に発揮できず、学ぶことに対する無力感（やってもできない…）がある状態です。学校生活の大部分を占めるのが授業ですから、その中でつらい思いをしている子は、何とかしなければいけません。

現在、文科省では「学習指導要領」(※)の改訂が進められていますが、実は、この学習指導要領の会議で、この調査で分かった「子供のつまずき」が取り上げられました。（この調査を開発した慶應大学の今井むつみ先生は、この会議「中央教育審議会」の専門委員）。（※学習指導要領とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程〔カリキュラム〕の基準。およそ 10 年に 1 度、改訂。子供たちの教科書や時間割は、これを基に作られる。）

この調査は、他県でも実施され、国の会議でも議論されていることから、本校でも、授業についていけない子の指導や支援に役立てるため、実施することにしました。この調査の詳細については、今井先生のご著書「学力喪失」（右写真）や「算数文章題が解けない子どもたち」をご覧くださいだけだと思います。

今年度はまず、本校の子供たちのつまずきの傾向を知るため、各学年 1 組で実施し、各学年の教員全員でその傾向を共有し、各クラスの授業にどう活かしていくか、その方策を検討していきたいと考えています。授業改善のために有効なヒントになると思います。

将来、子供たちが「なりたい自分」を見つけた時、そのなりたいものに「**なれる自分**」になるための力（教科の学力に加え、挨拶等のコミュニケーション力などの非認知能力を含む）をつけることが、私たち大人の役目だと思います。今後、学校だけでなく、コミュニティ・スクールの力も活かしながら、保護者・地域の皆様とともに考えていきたいと思っています。今後ともご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。



みなみトピックス

これまでの話題から

「運ばれたごみはどうなるの？」リアルな学び 4 年生 社会科見学

9月2日(火)、3日(水)、5日(金)の3日間、4年生が、つくば市のごみ処理施設「つくばサステナスクエア」へ社会科見学に行ってきました。今年は5クラスのため、3日間に分けての実施。事前に学習はしていますが、実際に自分の目で見て、働く人たちから聴く話は興味深いものばかりで、これからの学びにつながるお話でした。トラックが来て落される大量のごみを見て「ヤバ！スゴ！」と思わず声が…(今の子らしい)。そして「1日平均 200 t のごみ。月曜が最も多くて 400 t。水曜は 100 t 未満で少ない。燃え残った灰は、最終処分場の東北(青森・山形・秋田)へ。灰を減らすために、ごみを減らしてほしい。」の説明には、考えさせられた子どもが多かったようでした。見学中、子供たちは、これまでの授業での疑問や、その場で気付いたことを質問していました。

見学することで、さらに気付きや疑問が浮かんできた子供たち。今後、それらの疑問から生まれた「問い」を解決していくことが、実社会を、そしてよりよい未来を考えていくことになると思います。



ごみホッパ(投入口)へクレーンで



中央制御室の前でお話を聴く